

葛南教育事務所だより



千葉県教育庁葛南教育事務所
〒273-0012 船橋市浜町2 -5 -1
Tel 047-433-6017 Fax 047-433-3169



— ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかりやすい授業づくり」—

個別の支援と、学級全体でのユニバーサルデザインについて



【指導室 特別支援教育班】

葛南教育事務所では、令和4年度葛南教育事務所重点目標の一つとして、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『わかりやすい授業づくり』」を掲げています。今回は、個別の支援と、学級全体でのユニバーサルデザインとの関係性やバランスについて考えてみます。

学校を訪問すると、「個別の支援がたくさん必要で手が回らない。」「個別に支援されることを嫌がる児童生徒がいる。」というような先生方の悩みを聞くことがあります。「個に応じた支援」は、「個別に行うもの」とは限りません。個に応じた支援を全体の流れにさりげなく組み込むことで、支援を要する児童生徒が「わかる／できる」状況をつくり、他の児童生徒にとってもよりわかりやすい状況となるように、授業の流れや手立てを工夫していきましょう。

Point 1 ～全体の流れの中で、個に応じた支援を～

★三段階の支援レベルを意識してみます。

一次支援として、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備や授業づくりが充実すればするほど、二次支援・三次支援の必要性は減っていきます。

★一次支援を充実させた上で、二次支援・三次支援が必要な場合には、全体の流れの中で、個に応じた支援を行うことができないか、考えてみます。

★「できない／わからない」状況で個別に支援を受けることと、さりげない支援のもと、全体の流れの中で「できる／わかる」状況にあることとは、児童生徒が授業へ向かう意欲が変わってきます。「できる／わかる」状況をつくるための支援を、考えていきます。



例

複数の指示を覚えておくことが難しい（聴覚的ワーキングメモリの弱さがある）ために、授業の準備がうまくいかないAさんは、いつも授業の始めに先生に指摘され、悲しい気持ちで準備をしていました。先生が、全体に向けて、次の時間に準備するものを視覚的に提示するようにしたことで、Aさんは授業の準備が自分で行えるようになりました。また、まわりの児童生徒も、より確実にできるようになるとともに、あらかじめ使う物を準備する意識が高まりました。これからは教科係や日直が、準備するものを提示するようにしていこうと先生は考えています。

Point 2 ～できる／わかるための支援を、先手で～

- ★「できない／わからない」という失敗体験が日々連続してしまうと、児童生徒の自己肯定感は下がってしまいます。更に、辛い気持ちが積み重なると二次障害を招くことになってしまいます。児童生徒が、さりげない支援のもと、成功体験ができるように、「どうすればうまくできるか」を事前に考えるようにしましょう。事前の準備には手間がかかりますが、うまくいくと事後の対応は減ります。効果的な「先手の支援」を見つけて、よい循環をつくっていきます。
- ★大勢の児童生徒と同じように全部はできなくても、その中の一部分は自力でできることがあるかもしれません。「教師（支援員）が援助しながら一緒にやる」という状況ばかりでなく、「教師が援助する部分」と「一人でやる部分」を明確にし、少しでも、一人で取り組み達成できる状況をつくります。
- ★授業の後には、教師の行動と児童生徒の行動を振り返り、「なぜ、児童生徒はあのような行動をとったのだろう？」と考え、次の計画に生かします。
- ★先回りして支援しすぎることで、児童生徒の学びの機会が減ることが無いように気を付けます。児童生徒の実態をよく観察し、適度な支援の量と方法を検討します。

例

Aさんは、わからないことがあると、気持ちが落ち着かなくなり、ついつい暴言を言うてしまうことがありました。

その都度先生は注意をしますが、興奮しているAさんの耳には届かず、落ち着くことが難しい状況になることが繰り返されました。そのうちに、「自分なんかダメだ」と感じるようになってしまいました。

先生が、「質問カード」を用意し、いつでも見えるようにしておく、Aさんは、どのように質問をしたらよいか自分で気付き、カードを用いて落ち着いて伝えることができました。

カードで伝えることに慣れてきたので、これから徐々に口頭のみで伝えられるように移行していこうと先生は考えています。

例

Aさんは、「粘土をこねる」ということが、どういう動作でどれくらいこねればよいのかをイメージしづらく、一人では手を止めてしまうことがありました。先生と一緒にあれば取り組みますが、いつも一緒にできるわけではありません。

そこで、Aさんが動作と時間を捉えやすいように、絵カードとタイマーを準備し、「こね・こね・ググ・ググ」と音声をつけたところ、一人で取り組めるようになりました。他の児童生徒も、合言葉のように唱えながら、適度にこねることができました。

先生は手があき、Bさんの質問にも余裕をもって応えることができました。

Point 3 ～多様な児童生徒に適応できる授業の流れの工夫を～

- ★教科の特性や授業の内容にもよりますが、可能な場合には、全員が取り組める課題からスタートし、徐々にレベルアップする流れを組んでみます。
- ★理解が早い児童生徒や学力の高い児童生徒にも、個別の配慮が必要です。「発展問題」「お楽しみ問題」「自由プリント」などを用意しておき、早く終わった児童生徒もより学びを広げたり、深めたりすることができるようにします。
- ★理解力のみならず、集中力や注意力にも配慮し、様々な児童生徒が集中しやすい環境をつくり、静と動を組み合わせる活動のメリハリをつけたりしていきます。

例

ゆっくり → 早い

Level 1	適度	復習	簡単
Level 2	適度	適度	復習
Level 3	個別支援	適度	適度
発展問題			適度
おたのしみプリント(選択)			

終わった人は、「おたのしみBOX」から好きなプリントを選んで取り組みましょう。



授業の中心的な学習内容を「Level2～3」程度とすると、ゆっくりなAさんには「Level1～2」、早いCさんには「Level3以上」が適度な課題と考えられます。

先生は、授業をあえて「Level1」からスタートし、Aさんも参加しやすいようにしました。そして、BさんやCさんにはしっかりと復習ができるようにしました。

「Level3」の問題では、Aさんに個別に支援が必要なので、机間指導の時間を設け、支援しやすいようにしました。

Cさんにはさりげなく発展的な課題を伝え、より学びが深まるようにしました。

課題が終わった人が「おたのしみプリント」を自分で選んで取り組めるように、「おたのしみBOX」を用意しておきました。

学級という、多様な児童生徒がいる集団で一斉授業を行う際には、一人一人の児童生徒の特性に合わせた効果的な支援

を考えるとともに、

必要な支援を、いつ、だれが、どのように行うことが効果的（且つ効率的）であるかを考え、授業をコーディネートする必要があります。

T2として、他の教員や支援員が配置されていることもありますが、個別に行う支援と、全体の流れの中でできることをバランスよく組み合わせ、

「個に応じた支援」が、「個別に行う支援」ばかりにならないようにしていきましょう。

そのためには、様々な教員や支援員とのチームワークも大切です。

学び合い、助け合い、高め合うチームをつくっていきましょう。



千葉県総合教育センター
HPからダウンロードできます
※パソコン用の画面で見てください



←こちらも参考にしてください。

【ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集】

